

韓国大学生訪日団（第1～2団）招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】「対日理解促進交流プログラム（JENESYS2025）」の一環として、韓国全土から選抜された大学生等 105 名が、6 月 24 日～7 月 2 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的として訪日しました。一行はテーマ「日本の平和への取り組みと日韓交流」の下、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県を訪問し、各種視察、日本の大学生との交流、テーマに沿った講義聴講等を通じて、日本に対する理解を深めるとともに、プログラム中の学びや訪問地の魅力について SNS 等で発信しました。

【参加者】韓国の大学生等 合計 105 名

【訪問地】訪日（福岡県 105 名、佐賀県 105 名、長崎県 105 名、熊本県 105 名）

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

5 月 30 日（金曜日）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム：

6 月 24 日（火） 福岡国際空港から入国、来日時オリエンテーション

6 月 25 日（水） 【学校訪問・交流】（第1団）福岡大学、（第2団）西南学院大学

6 月 26 日（木） 佐賀県へ移動【視察】日韓交流の足跡「佐賀県立名護屋城博物館」、陶山神社、
長崎県へ移動

6 月 27 日（金） 【表敬・講義】長崎市役所「長崎市の概要について」、【視察】長崎原爆資料館、
韓国人原爆犠牲者慰霊碑、平和公園、【講義】被爆体験講話

6 月 28 日（土） 【視察】有馬キリシタン遺産記念館、世界遺産「原城跡」、
【講義】「南島原地域の魅力について」、【交流】ホームステイ対面式

6 月 29 日（日） 終日ホームステイ

6 月 30 日（月） ホームステイ解散式、熊本県へ移動、【表敬・講義】熊本県庁
「熊本地震からの復興と韓国との交流について」、【視察】熊本城

7 月 1 日（火） 【学校訪問・交流】（第1団）熊本学園大学、（第2団）熊本大学、
福岡県へ移動、成果報告会

7 月 2 日（水） 福岡国際空港から出国

2. 記録写真

	
6月25日【学校訪問・交流】福岡大学	6月25日【学校訪問・交流】西南学院大学
	
6月26日【視察】日韓交流の足跡「佐賀県立名護屋城博物館」	6月27日【表敬・講義】長崎市役所「長崎市の概要について」
	
6月27日【視察】長崎原爆資料館	6月30日ホームステイ解散式
	
6月30日【表敬・講義】熊本県庁	6月30日【視察】熊本城

	
7月1日【学校訪問・交流】熊本学園大学	7月1日【学校訪問・交流】熊本大学

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

ホームステイを通じて、日本の家庭の温かさや日常の文化を間近で体験し、日本に対する認識が変わった。食事や会話を通じて日本語を使ったが、間違っているのに笑い合う雰囲気のおかげで自信がついた。日本をより近く感じ、文化の違いも自然と理解することができた。

◆ 韓国 大学生

初めて日本の家庭で過ごして日本の日常と生活文化を間近で体験できたことが印象的だった。特に大学生との交流を通じてお互いの言語と文化を学び、心と心でコミュニケーションすることができた。お互いの違いを理解することが文化交流のスタートだということを感じた。

◆ 韓国 大学生

日本の大学生たちとの交流の中でお互いの悩み、関心、進路について真剣に話し、同世代として共感するとともに、国を越えた「青年」という共通したアイデンティティについて再び考えるようになった。また、何よりも今でも連絡しつづける友達ができたととてもありがたい。

◆ 韓国 大学生

歴史や文化を学ぶ既存のプログラム以外にも、日本の家庭を少しでも体験できるホームステイプログラムが印象的だった。また、同世代の大学生との交流を通し、文化的差異などについてお互いに意見交換できた点も良かった。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 長崎市役所 関係者

100名を超える訪問者や展望フロアの見学等、当課として初めての対応であったため至らない点が多くあったかと思いますが、日韓文化交流基金の皆様、また通訳の皆様等のおかげで無事遂行できました。感謝申し上げます。当市が韓国との交流が少なく、お伝えできることが限られてはいますが、今後も何か御協力できることがありましたら、ご連絡いただければ幸いです。

◆ 一般社団法人 南島原ひまわり観光協会 関係者

南島原市の紹介では熱心に耳を傾けてくださり、こちらからの質問にも元気よくお答えいただき、大変嬉しかったです。2泊3日のホームステイでは、離村式で別れを惜しんで涙を流す学生の姿も多々見られ、日本の田舎暮らしを体感しながら、言葉は通じずとも受け入れ先の家族と心の交流ができたと思っております。我々事務局も離村式での様子を見て心温まりました。またいつか南島原にお越しいただけることを心よりお待ちしております。

◆ 学校訪問先 学生

最初は韓国語に自信がなく、自分から話しかけることができませんでしたが、韓国の学生が一生懸命日本語で話そうとしてくれる姿を見て、拙くても伝えようとする気持ちが大切だと気づきました。最後には『会えてよかった』『韓国に来たら連絡してね』と言ってもらい、本当にうれしく、別れが名残惜しいほど印象深い時間となりました。

◆ 学校訪問先 学生

異なる国で生まれてはいるものの、お互いがそれぞれの国のマナーやルーツを学び理解し、リスペクトしあっていたと思います。交流会終了後も一緒に過ごす時間がありましたが、日本と韓国の歴史の授業について話したことがとても印象に残っています。私は単にニュースに出る情報を鵜呑みにせずに、理解を深めていきたいと思います。また、このような出会いを下の世代へ伝えていくことも重要だと感じました。一生の思い出になりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

<ナゴヤ성> 먼저 나고야성 박물관과 나고야성터 및 진영터를 견학했습니다! 박물관 직원들의 특강으로 나고야성에 대한 이해와 한국과의 교류 관계에 대해서도 들을 수 있었습니다! 사가현은 한국인에게 그렇게 유명한 관광지가 아님에도 불구하고 한일 교류를 위해 많은 노력을 하고 있다는 점을 알게 되었습니다. 또한 현지 일본인 분들을 대상으로 한국어 특강 등 문화 교류 프로그램이 있다는 점이 신기했습니다. 특강을 들으며, 전쟁의 아픔이 서로에게 남아있지만, 그 아픔을 교류로 치료하는 것이 우리 세대의 과제라고 생각하게 되었습니다.	나고야성 박물관 견학 사가현은 나고야성 박물관을 방문하였습니다. 전쟁으로 사라진 것을 잊고, 나가야의 정신을 후손에게 물려줄 것을 당부하며 전시하고 있는 물건입니다. • 전쟁박물관에서는 원소, 지리, 역사, 사회, 문화, 경제, 과학 등을 주제로 전시하고 있습니다. • 넓은 공간에 전시된 다양한 전시물은 관람객의 흥미를 유발하고 있습니다. • 전시물과 함께 설명을 들을 수 있는 오디오 가이드를 제공합니다. • 전시물과 함께 설명을 들을 수 있는 오디오 가이드를 제공합니다. 전시관 곳곳에 전시된 다양한 전시물은 관람객의 흥미를 유발하고 있습니다.
2025 年 6 月 27 日 (Naver Blog) 佐賀県は韓国人にとってそれほど有名な観光地ではないにもかかわらず日韓交流のために多くの努力をしているということを知りました。また、現地の日本人の方を対象に韓国語の特別講義などの文化交流プログラムがあるという点が新鮮でした。講義を聞きながら、まだ戦争の痛みは両国に残っていますが、そのような痛みも交流を通して治癒	2025 年 6 月 27 日 (Naver Blog) ここは 1945 年 8 月 9 日、長崎に投下された原子爆弾の惨状を生々しく展示している空間です。資料室では被爆当時の写真や映像、遺品等を見ることができ、原爆の実物大の模型も展示されていて衝撃を受けました。何よりも印象深かったことは日本の学生が見学していたことです。彼らは真剣な様子で歴史を忘れずに学ぼうとする意志を感じる

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）

	
【成果の発表】 ・交流を通じて、言語、価値観、生活様式等から韓国と日本の似ている点と違う点を実際に体験しながら比較し理解することができた。 ・ホームステイを通じて、日本の家庭の食事マナーやおもてなし、家族とのコミュニケーション等、日常の文化を体験し、とても深い学びを得た。 ・長崎原爆資料館、名護屋城博物館の訪問を通じて、日本と韓国の歴史的な繋がりを振り返り、戦争の残酷さと平和の大切さについて再認識した。 【アクション・プラン】 ・SNS アップロードや学校での広報を通じて、訪日団の活動を広く伝え、日韓交流の重要性を伝える。 ・日本語能力試験の学習、日本人留学生との交流、勉強会を通じて言語能力と文化理解を同時に高める。 ・9月から交換留学に行くための学習と準備を本格的に始め、今回の経験を長期的な日韓協力活動に拡大させる。	【成果の発表】 ・名護屋城と熊本城の視察を通じて日本の統一と繁栄をリードした武士の時代の歴史についての理解を深めました。また、陶山神社の視察を通じて両国間の深い交流の痕跡を学んだ。 ・長崎原爆資料館訪問を通じて戦争の痛み、平和の大切さを胸に深く刻むきっかけになった。 ・日本の大学生たちとの交流を通じ、日韓両国の就職事情や日常での共通点と相違点について深く理解できた。 【アクション・プラン】 ・日本の児童文学および教材を研究し、教育現場に適用する授業指導案を検討する。 ・日本関連のエッセイ大会や国際交流記者団などの対外活動に積極的に参加する。 ・韓国に留学する日本の学生と交流活動(キャンパスツアー、討論など)を行い、相互理解を深める。 ・日本の教育研究をもとに、実際の授業で活用できる指導案とポートフォリオを制作する。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金